

「大学教育における情報技術の有効活用 —MITのオープンコースウェアと アイデンティティ—」 MITの宮川繁教授が講演

宮川繁先生(マサチューセッツ工科大学教授)の「大学教育における情報技術の有効活用—MITのオープンコースウェアと大学のアイデンティティ—」と題した講演会が、大学教育研究センター主催により、7月23日15時10分から16時40分まで、521講義室で行われた。



講演する宮川繁氏

オープンコースウェアは、約2,000あるMITのすべての授業の教材をweb上で無料公開するプロジェクトで、2001年4月にMITのベスト学長によって発表された。発表直後より世界中のメディアに取り上げられ、広く公表しているわけではないが、現在までに約50コースが公開されて、訪問者数80万人、アクセス数は1億回を超えていることが紹介された。本年10月までに500コース、5年以内にすべてのコースを公開する予定とのことである。全盛であった.netビジネスとしてスタンフォード大学などで遠隔教育授業を行っていた時期に、フリーのオープン

コースウェアを立ち上げた意味について詳しく説明がなされ、「MITで先行してwebで教材を公開していた教授は、自らの教育の改善のために自主的に行っている」こと、「先行していた他大学で遠隔教育がビジネスとして成立していなかった」ことなどを総合的に判断した結果であることが紹介された。

MITにおいてオープンコースウェアは、「MITの教育そのものではない。MITの教育はキャンパスでの学生間の交流、学生と教員との交流に本質がある。そのごく一部がオープンコースウェアであり、MITの教育を無料で提供しているわけではない」という位置付けであることが説明された。この位置付けの基にオープンコースウェアプロジェクトは進められ、その過程で「大学の教育とは何か」について議論が深められたことが示された。MITにおいては、「教育は人間と人間の間で行われるもので、教材はほんの一部である」ことが明確にされ、オープンコースウェアについては次のような理念が示された。「オープンコースウェアは、MITの教授がMITの学生のために作ったものを無料で世界に提供して利用されることを意図している。遠隔教育ではない。単位は取れない。登録はしない。教授との接触はない。オープンコースウェアは、MITのweb上での教材の出版活動であり、知識を全くopenにしてshareし、誰でもアクセスできる永久に続けるべきプロジェクトである。MITでは社会に役立つことを目的として研究開発を行っている。教育活動を世界で役立たせる活動もMITの使命であり、その役割をオープンコースウェアは担う。」

オープンコースウェアのコンテンツの著作権、著作権に関する説明がなされ、条件を満たせばコンテンツの翻訳・改変・利用が可能であることが示された。オープンコースウェアに教材を載せるに際しての負担が教授にかからないような電子化コンテンツ作成サポート体制と、教材として利用している資料の知的所有権・著作権問題を解決する専門部署があることが紹介された。

宮川先生の歴史に関するコースのコンテンツを基にしてオープンコースウェアの実例が紹介された。

最後に、オープンコースウェアを無料で立ち上げた理由や、知的所有権の管理等について質疑がなされた。

Massachusetts Institute of Technology
OPENCOURSEWARE の URL は、<http://ocw.mit.edu/>
である。

（大学教授 電気工学科 後藤英雄）